



TITLE:

<記事>1.概要

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>1.概要. 瀬戸臨海実験所年報 2006, 19: 2-2

ISSUE DATE:

2006-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179057>

RIGHT:

1. 概 要

平成 17 年度

□ 職員等の移動

- ・ 田名瀬英朋氏を派遣職員として雇用（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）。
- ・ 新井伸一事務掛長が医学研究科へ転出、深尾秀正事務主任が農学研究科等経理課用度掛から事務掛長として着任（平成 17 年 4 月 1 日）。
- ・ 深見裕伸氏（カリフォルニア大サンディエゴ校スクリップス海洋研）を助手採用（平成 17 年 4 月 1 日）。
- ・ 津島由紀子氏が退所（平成 18 年 3 月 31 日）。

□ 行事・来訪者

- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議（春季）（於お茶ノ水女子大学、東京）、久保田信助教授が出席（平成 17 年 5 月 18 日）。
- ・ 瀬戸臨海実験所水族館創立 75 周年記念で水族館無料開放（大人 426 小人 229 計 655 名）（平成 17 年 6 月 4 日）。
- ・ 平成 17 年度博物館実習として北野裕子氏（奈良女子大学理学部生物科学科 4 回生）を受入（平成 17 年 6 月 13 日～6 月 17 日）。
- ・ 第 71 回近畿ブロック水族館飼育係研修会を開催（平成 17 年 6 月 14 日）。
- ・ 金田章裕副学長来所（平成 17 年 6 月 18 日）。
- ・ 大学院入試（平成 17 年 8 月 8 日～8 月 10 日）。
- ・ 平成 17 年度博物館実習として浅井香奈絵氏（愛媛大学理学部生物地球圏科学科地球科学系）を受入（平成 17 年 9 月 5 日～9 月 8 日）。
- ・ 瀬戸臨海実験所年報 18 巻発行（平成 17 年 12 月 25 日）。

2. 臨 海 実 習

□平成 17 年度

例年の通り、京都大学理学部をはじめ諸大学及び高校の臨海実習が下記の通り実施された。

（大学・実習科目・実習期間・受講学生数）

京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ	8/15-8/22	延	32 人・日
京都大学理学部生物系臨海実習Ⅰ	9/16-9/23	延	72 人・日
京都大学理学部生物系臨海実習Ⅱ＊	3/22-3/28	延	77 人・日
京都大学理学部生物系臨海実習Ⅲ＊	3/9-3/14	延	12 人・日
京都大学全学共通科目生物学実習Ⅱ	2/27-3/2	延	96 人・日
京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 INTER LAB	4/15-4/16	延	80 人・日
京都大学大学院人間・環境学研究科海洋化学実習	7/26-7/29	延	68 人・日
京都大学全学共通科目「探求型化学実験」	8/28-9/1	延	60 人・日
京都大学防災研究所気象海象観測実験	9/10-9/11	延	34 人・日
京都大学新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）	（1 部）「海洋生物の多様性」 5/1-5/5	延	45 人・日
京都大学新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）	（2 部）「紀伊半島南部の里域生物 相調査」 7/29-8/1	延	12 人・日
京都大学新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）	「節足動物学入門」 9/12-9/16	延	15 人・日
京都大学フィールド科学教育研究センター森里海連環学実習	9/25-9/30	延	36 人・日